



②の文章の方が、様子がよく分かりますね。それは、メダカの卵の大きさやさわった感じ、めすのメダカの形などが書けているからです。
観察記録文は、変化した様子や大きさをできるだけ正確にびよう写しておくことが大切です。

* びよう写とは、人物の行動の様子、気持ち、物の様子、景色などがあるがままに目にうかぶように書き表す方法です。

2 次の文章の①～⑧は、後のどのびよう写にあたるか、その番号を（ ）の中に書きましょう。

① 「お母さん、ミニトマトに水やってくれた。」

② わたしは、学校から帰るとすぐにたずねました。

「いいえ、まだやってないわよ。」

と、台所の方で母が言いました。

③ わたしは、げん関にランドセルを置いて、急いで庭へ飛び出しました。④ 「今日は朝からずっと晴

れていたの、からからにかわいて
いるかも…」と思いながら、⑤ じょう
ろにいっぱい水を入れてプランター
の所へ小走りに行きました。
⑥ ザザーッ。⑦ じょうろのシャワーに
うたれて、細長いふた葉がぶるぶる
とふるえています。⑧ 白っぽい土が、
たちまち黒くしめります。



ア 情景（様子や気持ち） びよう写

（ ） （ ） （ ） （ ）

イ 人物の気持ち、心の中のびよう写

（ ） （ ）

ウ 人物の行動（したこと）のびよう写

（ ） （ ） （ ）

エ 会話

（ ） （ ） （ ）



日記文や生活作文などを書くときも
いろいろなびよう写を使いましょう。